

## 平成28年3月期 第3四半期決算および通期業績予想について

ANAホールディングスは、本日1月29日(金)、平成28年3月期 第3四半期決算を取りまとめました。詳細は「平成28年3月期 第3四半期決算短信」をご参照ください。

## 1. 平成28年3月期 第3四半期の連結経営成績・連結財政状態

## (1) 概況

- ・当第3四半期のわが国経済は、一部に弱さも見られますが、個人消費は総じてみれば底堅い動きとなる等、緩やかな回復基調が続きました。先行きについては、中国を始めとするアジア新興国の景気が下振れする等、わが国の景気を下押しするリスクがあるものの、雇用環境の改善が続く中で各種政策の効果もあり、緩やかな回復に向かうことが期待されています。
- ・成田または羽田から新たに海外4都市への運航を開始する等、国際線ネットワークのさらなる拡充を進め、成田と羽田のそれぞれのネットワーク特性を活かして国際的なハブ空港としての機能強化を図る等、首都圏デュアルハブモデルの進化に取り組んでいます。
- ・4月より『STAR WARSプロジェクト』を開始し、10月以降、国内外において「スター・ウォーズ」に登場するキャラクターをデザインした特別塗装機2機の運航を開始する等、グローバルな知名度の向上に努めました。
- ・ネットワークを拡充して国際競争力を強化した国際線旅客事業を中心に、日本発需要、訪日需要、北米～アジア間の乗り継ぎ需要を幅広く取り込んだこと等により、売上高は前年同期を上回りました。事業規模を拡大する中でも営業費用の増加を抑制し、コスト構造改革も計画どおりに進めた結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに増益となりました。

これらの結果、当第3四半期の連結経営成績は売上高が13,690億円、営業利益は1,167億円、経常利益は1,121億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は733億円となりました。

単位: 億円(増減率を除き、単位未満は切り捨て)

【連結経営成績(累計)】	平成28年3月期 第3四半期	平成27年3月期 第3四半期	増減	増減率(%)
売上高	13,690	12,972	717	5.5
営業費用	12,522	12,079	443	3.7
営業損益	1,167	892	274	30.8
営業外損益	▲45	▲147	101	—
経常損益	1,121	745	376	50.5
特別損益	55	116	▲61	▲52.2
親会社株主に帰属する 四半期純損益	733	523	209	40.0

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成28年3月期 第3四半期		平成27年3月期 第3四半期		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
航空事業	11,842	1,186	11,242	782	599	403
航空関連事業	1,730	▲38	1,705	94	25	▲133
旅行事業	1,293	42	1,306	44	▲13	▲2
商社事業	1,084	44	949	32	134	11
その他	245	11	235	13	10	▲1

## (2) 航空事業

### ① 国内線旅客

- ・北陸新幹線の開業に伴う競争環境の変化に加え、7月以降に発生した台風による欠航の影響等により、旅客数は前年同期を下回りましたが、需要動向に応じて各種運賃を柔軟に設定し増収に努めたこと等から、収入は前年同期を上回りました。
- ・羽田空港において、国際線発着枠の暫定使用の終了に伴い、ウィンターダイヤから一部の路線を減便した一方、需要動向を踏まえ、羽田＝関西線を増便しました。また、北陸新幹線の開業に伴う競争環境の変化に対応し、機材を小型化して利用率を改善する等、需給適合に努めました。
- ・海外の旅行代理店で購入できる訪日旅客向け新運賃「ANA Discover JAPAN Fare」の販売を開始する等、増加する訪日需要を着実に取り込みました。
- ・サービス面では、4ヶ国語5言語に対応することにより海外からのお客様の利便性を向上させた「新自動チェックイン機」の導入を10月より開始し、2015年末時点で羽田を含む国内46空港に展開する等、サービス向上に努めました。

結果として、国内線旅客収入は56億円の増収(前年同期比1.1%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国内線旅客】	平成28年3月期 第3四半期	平成27年3月期 第3四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	5,289	5,232	56	1.1
旅客数(千人)	32,562	32,881	▲318	▲1.0
座席キロ(百万座席キロ)	45,207	45,638	▲430	▲0.9
旅客キロ(百万人キロ)	29,334	29,264	70	0.2
利用率(%)	64.9	64.1	0.8	——

### ② 国際線旅客

- ・11月にパリで発生したテロの影響により、日本発の一部欧州路線で旅客需要が減退しましたが、北米路線のビジネス需要が好調に推移したことに加え、全方面からの旺盛な訪日需要を積極的に取り込んだこと等により、旅客数・収入ともに前年同期を上回りました。
- ・上期における成田＝ヒューストン線と成田＝クアラルンプール線の開設に続き、ウィンターダイヤから成田＝ブリュッセル線、12月から羽田＝シドニー線の運航を開始しました。また、日中両国の政府間協議の合意を受け、ウィンターダイヤから羽田＝広州線に就航したほか、羽田＝北京線及び上海線を増便し、訪日需要等の取り込みを図りました。
- ・サービス面では、10月から日本と米国本土間の全路線のビジネスクラスにおいてフルフラットシートを提供することにより、お客様の快適性と競争力を向上させました。

結果として、国際線旅客収入は371億円の増収(前年同期比10.5%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国際線旅客】	平成28年3月期 第3四半期	平成27年3月期 第3四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	3,913	3,541	371	10.5
旅客数(千人)	6,054	5,361	692	12.9
座席キロ(百万座席キロ)	40,441	37,218	3,222	8.7
旅客キロ(百万人キロ)	30,228	26,829	3,398	12.7
利用率(%)	74.7	72.1	2.7	——

### ③貨物

- ・国内線貨物は、航空貨物需要が伸び悩む中、新たな予約販売システムを活用し、貨物代理店に空きスペース情報をリアルタイムに提供する等、需要の取り込みに努めましたが、円安の影響で国際線からの転送貨物が減少したこと等から、輸送重量・収入ともに前年同期を下回りました。
- ・国際線貨物は、旅客便ネットワークを活用して需要を取り込んだほか、貨物便でも10月より成田－厦門－沖縄線や成田－青島－沖縄線を開設する等、沖縄貨物ハブを活用したアジア域内の三国間輸送貨物やエクスプレス貨物を取り込みましたが、日本発貨物や、円安の影響を受けた海外発日本向け貨物が伸び悩んだこと等から、輸送重量・収入ともに前年同期を下回りました。

結果として、国内線貨物収入は7億円の減収(前年同期比3.1%減)、国際線貨物収入は54億円の減収(前年同期比5.8%減)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【貨物】		平成28年3月期 第3四半期	平成27年3月期 第3四半期	増減	増減率(%)
国内線	貨物収入(億円)	244	251	▲7	▲3.1
	輸送重量(千トン)	360	369	▲9	▲2.5
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	363	369	▲6	▲1.8
国際線	貨物収入(億円)	883	938	▲54	▲5.8
	輸送重量(千トン)	611	646	▲34	▲5.4
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	2,642	2,731	▲89	▲3.3

### ④その他

- ・マイルージ附帯収入やバニラ・エア株の収入、機内販売収入、整備受託収入等で構成される航空事業におけるその他の収入は、1,433億円(前年同期比18.8%増)となりました。
- ・バニラ・エア株では、10月より成田＝台北線を増便したほか、海外におけるインターネット宣伝広告を強化し、台湾で中国語に対応した予約センターを開設する等、訪日需要の取り込みに努めました。当第3四半期における輸送実績は、旅客数は1,297千人(前年同期比57.9%増)、利用率は85.7%(前年同期差8.8ポイント増)となりました。

### (3)航空関連事業・旅行事業・商社事業・その他

- ・航空関連事業においては、羽田空港や関西空港における空港地上支援業務の受託増等により、当第3四半期の売上高は1,730億円(前年同期比1.5%増)となりましたが、当第3四半期においてパイロット等の訓練会社である連結子会社Pan Am Holdings, INC.の株式取得時に計上したのれんの未償却残高を一括償却したこと等から、38億円の営業損失となりました。
- ・旅行事業においては、国内旅行では、主力商品「ANAスカイホリデー」が沖縄・北海道方面を中心に取扱高が増加したこと等により、売上高は前年同期を上回りました。海外旅行では、円安や欧州におけるテロの影響を受け主力商品「ANAハローツアー」の取扱高が減少したこと等から、売上高は前年同期を下回りました。なお、訪日旅行については、台湾や中国本土からの旺盛な訪日需要を取り込み、取扱高は前年同期を上回りました。これらの結果、当第3四半期の売上高は1,293億円(前年同期比1.0%減)、営業利益は42億円(前年同期比4.7%減)となりました。
- ・商社事業においては、リテール部門や食品部門、航空・電子部門の売上が好調であったこと等により、当第3四半期の売上高は1,084億円(前年同期比14.2%増)、営業利益は44億円(前年同期比35.9%増)となりました。
- ・その他については、保守管理事業が好調であったものの事業費が増加し、当第3四半期の売上高は245億円(前年同期比4.3%増)、営業利益は11億円(前年同期比11.8%減)となりました。

(4) 連結財政状態

(自己資本比率、D/Eレシオを除き単位未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成28年3月期 第3四半期	平成27年3月期	増減
総資産(億円)	22,919	23,024	▲104
自己資本(億円)(注1)	8,248	7,982	265
自己資本比率(%)	36.0	34.7	1.3
有利子負債残高(億円)(注2)	7,532	8,198	▲666
D/Eレシオ(倍)(注3)	0.9	1.0	▲0.1

注1: 自己資本は純資産合計から非支配株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

(5) 連結キャッシュ・フロー

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フローなど】	平成28年3月期 第3四半期	平成27年3月期 第3四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,158	1,935
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,472	▲2,220
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲832	▲150
現金および現金同等物期末残高	1,944	1,997
減価償却費	1,015	974

2. 平成28年3月期の見通し

- ・昨年4月30日に発表した連結業績予想と比べて、売上高は、航空事業における貨物収入の伸び悩みや、旅行事業において欧州におけるテロの影響を受けた取扱高の減少があったものの、航空事業における国際線旅客収入が堅調に推移していること等から据え置いています。
- ・営業利益は、航空関連事業における連結子会社であるPan Am Holdings, INC. の株式取得時に計上したのれんの未償却残高を一括償却しましたが、燃油費を中心にさらなる費用抑制が見込まれること等により、約100億円の増加となる見通しです。
- ・経常利益は、営業利益の増加に加え、金融収支の改善、航空機及び部品の除売却損益の改善等により約200億円の増加となる見通しであり、特別損益、税金費用等を調整した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は約130億円の増加となる見通しです。

以上により、昨年4月30日に発表いたしました平成28年3月期の連結業績予想につきまして、以下のとおり修正いたします。

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【平成28年3月期見通し】 (連結業績)	修正予想	当初予想	増減	前期実績 (平成27年3月期)	増減
売上高	17,900	17,900	—	17,134	765
営業利益	1,250	1,150	100	915	334
経常利益	1,100	900	200	671	428
親会社株主に帰属する 当期純利益	650	520	130	392	257

以上